交差点事故対策の手引

編集・発行：一般社団法人 交通工学研究会　　発売所：丸善出版 株式会社
平成 14 年 11 月発行 A4 判 180 頁　本体価格 3,500 円+税 会員価格 3,000 円+税 ISBN 978-4-905990-46-8

本書は、交通工学研究会交差点事故対策マニュアル検討委員会が、効果的な事故分析、対策立案のための適切なマニュアル整備に資するため、これまでの技術的経験・知見をまとめたものである。

事故対策においては、各段階での的確な判断のためには経験に裏打ちされた知識体系に基づく的確な判断が要求される。しかしながら、現状は必ずしも、対策実施者を支援するマニュアルが整備されていない状況にある。

そのため、効果的な事故分析・対策のためには適切な事故対策マニュアルの整備が重要であるとの認識のもと、これまでの技術的基礎知見を整理してとりまとめたものである。本書を、事故対策に取り組む道路管理者、交通管理者、民間コンサルタント等、できる限り多くの人々に活用していただき、交通事故減少の一助となることを期待する。　（交差点事故対策マニュアル検討委員会）

目次

パート0：本書のねらいと構成
- 0.1 本書作成のねらい
- 0.2 手引の構成
- 0.3 手引の使い方

パート1：危険箇所の抽出
1. 事故対策交差点の考え方
2. 抽出方法
3. 抽出に関する今後の課題

パート2：診断および対策案の選定
1. 序論
2. 基礎資料の整理
3. 交差点の診断
4. 対策の立案
5. 診断・対策の検討例

パート3：対策の効果評価
1. 序論
2. 対策評価の基本概念
3. 評価方法
4. 今後の課題

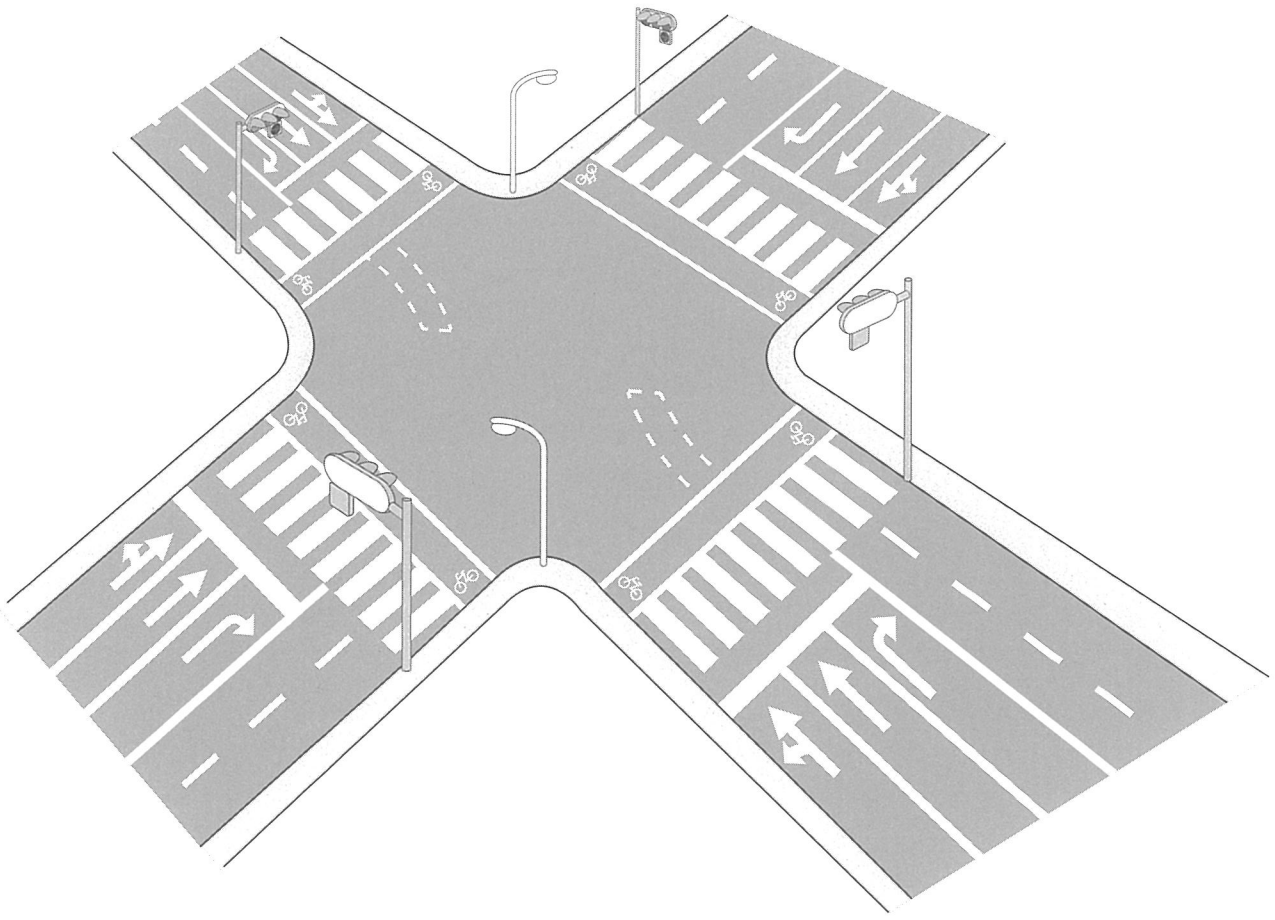
<付録>
付録A：事故チェックシート・交差点チェックシートの適用例
付録B：事故チェックシート・交差点チェックシート



ご注文は・・・
当会ホームページよりご注文願います　http://www.jste.or.jp/

一般社団法人　交通工学研究会　Tel: 050-5507-7153　Fax: 03-6410-8718

交差点事故対策の手引



社団法人　交通工学研究会編

ま　え　が　き

本書は、㈳交通工学研究会 交差点事故対策マニュアル検討委員会が、効果的な事故分析、対策立案のための適切なマニュアル整備に資するため、住友海上福祉財団の助成研究として㈶交通事故総合分析センターと㈳交通工学研究会とのマニュアル作成共同研究会での検討成果を基礎に、これまでの技術的経験・知見をまとめたものである。

事故対策においては、十分な経験を持つスタッフが常時対応できればよいが、現実のところその衝にあたる者の在任期間の短さ・一人あたりの仕事量の多さなど、その実行場面では多くの制約があることから、そのパフォーマンスには自ずからかなり限度があるといえよう。もとより、事故対策における各段階での的確な判断のためには経験に裏打ちされた知識体系に基づく的確な判断が要求されており、そのためにはそうした知識体系が定常的に的確に蓄積される仕組み・システムが必須である。しかしながら、現状は必ずしもその蓄積・対応が十分には機能していない状況にあり、これに対しては早急に対応すべきである。

本研究では、効果的な事故分析・対策のためには適切な事故対策マニュアルの整備が重要であるとの認識のもと、これまでの技術的基礎知見を整理してとりまとめた。検討に際しては、具体的な作業の流れを想定して作成作業を行ったが、残念ながら実場面での適用試行は極めて限定的にしか行っていないため、今後さらに実際の現場での適用を介して内容更新をはかり、実用性･完成度を高めていこうとするものである。記述方法･内容等に関してお気づきの点があれば、ご批判ご叱正を交えて、ご意見をお寄せいただくよう、お願いしたい。

終わりにあたり、執筆とりまとめにあたった委員のほか、資料の提供等に御協力いただいた関係機関に対して、ここに深謝する次第である。

平成 14 年 11 月

交差点事故対策マニュアル検討委員会

委員長　大蔵　泉

目　次

パート0：本書のねらいと構成 …… 1
0.1　本書作成のねらい …… 3
0.2　手引の構成 …… 3
パート1：危険箇所の抽出 …… 3
パート2：診断および対策案の選定 …… 3
パート3：対策の効果評価 …… 3
0.3　手引の使い方 …… 4

パート1：危険箇所の抽出 …… 5
1.　事故対策交差点の考え方 …… 7
1.1　抽出の視点 …… 7
1.2　データの収集方法 …… 12
2.　抽出手法 …… 19
2.1　事故発生状況からの抽出手法 …… 19
2.2　安全性の観点からの抽出手法 …… 27
2.3　錯綜技法 …… 29
3.　抽出に関する今後の課題 …… 30

パート2：診断および対策案の選定 …… 31
1.　序論 …… 33
1.1　パート2の目的 …… 33
1.2　診断・対策の実施手順 …… 33
2.　基礎資料の整理 …… 35
2.1　診断の基礎資料 …… 35
2.2　基礎資料の整理方法 …… 37
3.　交差点の診断 …… 43
3.1　室内分析 …… 43
3.2　現地調査 …… 48
3.3　事故要因の特定 …… 51
4.　対策の立案 …… 52
4.1　対策候補の抽出 …… 52
4.2　対策の選定 …… 52
4.3　留意事項 …… 53
5.　診断・対策の検討例 …… 55
5.1　基礎資料の整理 …… 55
5.2　交差点の診断（室内分析） …… 56
5.3　交差点の診断（現地調査） …… 59

5.4　診断内容の検討 …… 59
5.5　診断結果 …… 63
5.6　対策の立案 …… 64
5.7　検討のまとめ …… 65

パート3：対策の効果評価 …… 67
1.　序論 …… 69
1.1　目的 …… 69
1.2　利用方法 …… 69
2.　対策評価の基本概念 …… 71
2.1　対策評価の考え方 …… 71
2.2　評価に関する基本項目 …… 72
3.　評価方法 …… 80
3.1　評価方針の設定 …… 81
3.2　評価に必要なデータ …… 90
3.3　評価手法 …… 99
3.4　留意点 …… 103
4.　今後の課題 …… 106
4.1　対策評価の問題点 …… 106
4.2　評価データの蓄積～データベースの構築 …… 106
4.3　定量的評価手法 …… 107

付録A：事故チェックシート・交差点チェックシートの適用例…… 111

付録B：事故チェックシート・交差点チェックシート…… 127
B－1　事故チェックシート …… 129
B－2　交差点チェックシート …… 155